

## 1 - 1 広域的漁業管理組織の成立と発展 - 瀬戸内海西部海域を中心に -

田中 史朗（兵庫県立川西緑台高等学校）

私の最大の関心事（研究テーマ）は、いかに産業としての漁業を生きながらえさせ（漁業の持続的生産を保証し）、地先漁業権の管理主体である漁業協同組合を核とする漁村社会の持続性を確保する（漁村コミュニティの崩壊を阻止する）かにある。そのために、望ましい漁場（水産資源）利用とその管理のあり方、漁業協同組合の果たす機能（役割）の再評価とその強化策、漁業経営体と漁場（水産資源）利用をめぐる望ましい関係の構築とそのための漁業経営組織のあるべき姿を解き明かすことの3つの視点から調査研究を進めてきた。

最近では、漁業経営の安定持続化という観点から、「望ましい漁場（水産資源）利用とその管理のあり方」に関心をもち、広域的漁業管理組織の合意形成やネットワーク作りの現状と課題、そしてそれが持続性を保つにはそのような条件が必要であるのかについて、多くの漁業者が入り会って操業する瀬戸内海を事例として取り上げ、調査を進めている。

本報告では瀬戸内海区でも調査をやり残している西部海域を対象に、主要漁法である小型機船底曳網漁業並びに機船船曳網漁業に焦点を当てて、広域的漁業管理組織の実態を精査し、普遍性を持った望ましい漁業管理組織像を描きたいと考えている。そして多種多様な漁業の併存と世代間の漁場利用の棲み分けを保障し、漁業者が遍く精神的にも経済的にも豊かさを実感できる協調的・総合的な漁場利用のあり方を決めるフレームワーク作りに役立てたいと考えている。なお、調査地域は、広島・山口両県にまたがる安芸灘海域、愛媛・山口・大分の三県にまたがる伊予灘海域、山口・福岡・大分の三県にまたがる周防灘海域である。